

過疎地、ダム、農業、文化財保護など 夕張との関連の深い内容動画一覧

- (1)生きる×2 ふるさと **ダム**に消えても
(2008年4月26日 名古屋テレビ放送 25分)
- (2)HTBノンフィクション「先生、あのね…」
～詩集「サイロ」の50年～
(2011年5月28日 北海道テレビ放送 49分)
- (3)おら達の故郷 ～**限界集落**を守り、繋ぐこと～
(2011年5月31日 新潟放送 57分)
- (4)どさんこワイド179 みる・みる・みらいスペシャル **三笠**高校
(2014年3月26日 札幌テレビ放送 23分)
- (5)**農**ガール☆かなやん 移住女子と**希望集落**
(2014年5月28日 新潟放送 52分)
- (6)どさんこドキュメント2014 みる・みる・みらいスペシャル
笑顔で生きよう **ことばで寄り添う**「赤ひげ先生」
(2014年12月20日 札幌テレビ放送 38分)
- (7)みらいへの約束
～東日本大震災から5年 **被災文化財**を救え～
(2016年3月5日 IBC岩手放送 46分)
- (8)HAB報道特別番組 奥能登の選択
～**産廃を呼んだムラ**の10年～
(2017年5月22日 北陸朝日放送 48分)
- (9)全ては**熊**から教わった 木彫家 藤戸竹喜の世界
(2017年10月21日 札幌テレビ放送 48分)
- (10)ほっとネットとうほく 農を営む ～**地域農業**を守り続けて～
(2020年3月28日 秋田朝日放送 47分)

過疎地、ダム、農業、文化財保護など 夕張との関連の深い内容動画紹介

(1) 生きる×2 ふるさと **ダム**に消えても

◇制作年 2008年4月26日

◇放送局 名古屋テレビ放送

◇時間 25分

ダムの底に沈んだふるさとの村に通い続ける夫婦の姿を通し、故郷とは何か、その強い思いを描く。◆1987年、岐阜県徳山村はダム建設計画のために廃村になった。8つの集落の人々は順に移転していき、2000年にダム本体着工、2006年9月にはついに貯水が始まった。戸入（とにゅう）地区に住んでいた宮川さん夫妻は、移転後も何度も家に通ってきた。趣味の油絵の題材はいつも故郷の風景。戸入地区が道ごと沈んだ2007年、夫妻はかつて使われていた林道を探して、故郷への道をたどる。藪をかき分け、いくつもの峰を超え、地面にしがみつくように急坂を降りてたどりつく故郷。

(2)HTBノンフィクション

「先生、あのね…」～詩集「サイロ」の50年～

◇制作年 2011年5月28日

◇放送局 北海道テレビ放送

◇時間 49分

昭和35年（1960）1月、まだランプで暮らす村々も多かった北海道・十勝に、子どもの詩集「サイロ」が誕生した。サイロとは牧草などを発酵させ貯蔵する倉庫のことだ。◆サイロに蓄えられた草は発酵して栄養豊かな飼料になる。子どもの心が熟成し、豊かな人間性が育つようにと、その詩集は名付けられた。十勝の子どもたちが自作の詩を投稿し、小学校の先生たちが手弁当で編集を担当。表紙は坂本龍馬の末裔である山岳画家・坂本直行が引き受けた。◆創刊から半世紀余り。詩集「サイロ」は毎月子どもたちのもとへ届けられ、その数は600号を超えた。掲載された詩は1万編、投稿された詩は20万編を数える。この50年で時代は激変したが、子供たちの詩は変わることなく輝きを放っている。「サイロ」を守り育てる大人たち、そして十勝の大地に育つ子どもたちの心の詩情豊かに描く。

(3) おら達の故郷 ～限界集落を守り、繋ぐこと～

◇制作年 2011年5月31日

◇放送局 新潟放送

◇時間 57分

日本の中山間地では過疎と高齢化に拍車がかかり、問題が山積みだ。こうした地域の高齢者“買い物弱者”への生活支援の一環で始まった新潟県上越市の移動スーパーの現状や課題を検証する。さらに移り住んだ若者の姿を追いながら、いま過疎が進む集落にはどんな支援が必要なのかを考える。番組は中山間地に暮らす人々の故郷への想いを描く。

(4)どさんこワイド179

みる・みる・みらいスペシャル **三笠**高校

◇制作年 2014年3月26日

◇放送局 札幌テレビ放送

◇時間 23分

「みる・みる・みらい」をテーマに北海道の未来につながる“力”を応援するS T V札幌テレビ。夕方の情報番組「どさんこワイド179」のスペシャルウィークでは、長期取材してきた「北海道の未来を創る人々」を特集で紹介する。この回は、食のスペシャリスト養成学校として再出発した三笠市立三笠高校に密着する。◆旧産炭地の北海道三笠市。市立三笠高校は2012年4月に開校、北海道に初めてできた食の専門の公立高校だ。食のスペシャリストを目指して、料理の基本から、おもてなし、食文化までを学ぶ。現在、生徒は1年生と2年生を合わせて80人。元々は道立の高校で昭和40年代に生徒数は1600人以上であったが、石炭産業の衰退と共に過疎化が進み、2012年3月に廃校が決定した。しかし、三笠市は「料理の専門校として高校を残す」と決断。調理師やパティシエなどを目指す若者を地元以外からも呼び込み、街に活気を取り戻そうと考えた。この特集では、プロの料理人を夢見る若者たちの奮闘、街の物語や三笠市民との交流を伝える。

(5)農ガール☆かなやん 移住女子と希望集落

- ◇制作年 2014年5月28日
- ◇放送局 新潟放送
- ◇時間 52分

東京の大学を卒業した“かなやん”こと坂下可奈子さんは、2011年2月、新潟県の豪雪地・十日町市池谷集落に単身移住してきた。池谷は過疎・高齢化がすすむ、いわゆる限界集落。坂下さんは大学生の時に農作業ボランティアとして池谷を訪れ、人々の温かさや暮らしに感動し、この集落で農家として生きることを決めた。しかし、里山での農業はそうたやすいものではない。集落に溶け込み、農家として自立しようと、彼女は悪戦苦闘を続けた…。移住から3年。27歳となった坂下さんは、農家として独立した。そして、消えかけている池谷集落の存続にむけて、地域一体となって活動をしている。農業女子“かなやん”の奮闘の様子を、日本の原風景の素晴らしさとともに伝える。

(6)どさんこドキュメント2014

みる・みる・みらいスペシャル

笑顔で生きよう **ことばで寄り添う**「赤ひげ先生」

◇制作年 2014年12月20日

◇放送局 札幌テレビ放送

◇時間 38分

人口2千7百人の北海道・南富良野町。幾寅という小さな地区で10年前に開業した「けん三のことば館クリニック」が舞台。内科・小児科・心療内科の医師・下田憲さん（67歳）は、地域医療を支えてきた功績が認められ、2014年春「全国赤ひげ大賞」を受賞した。その診療方法は、患者に時間をかけて向き合い、寄り添う言葉をかけ、ひとりの人間として関わっていくことに徹している。◆1日50人にも及ぶ予約患者の多くは、すぐる思いで下田さんのもとを訪ね、心と体をゆだねている。病院での診察だけでなく、地域の福祉施設への往診も行い、過疎地域の乏しい医療を日々支え続けている。その思いの原点には、医師に成り立ての頃の“後悔”があった。◆番組では、下田さんの日々の診療だけでなく、患者の日常生活、研修に訪れた若い医師なども取材。この地域だけでなく、北海道が抱えるであろう医療の現状を描き、北海道の未来に向けて何が必要かを問いかける。STV・ニュース情報番組「どさんこワイド179」の特別編。

(7)みらいへの約束

～東日本大震災から5年 **被災文化財**を救え～

◇制作年 2016年3月5日

◇放送局 IBC岩手放送

◇時間 46分

東日本大震災から5年。被災した文化財の修復作業を取材し、地域の宝を取り戻して、未来へのバトンをつなぐ人々の情熱と困難を描く。◆岩手県立博物館の横に建つプレハブの建物は「仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設」。ここでは世界の文化財の歴史の中で、かつてない試みが続けられている。海水を被った文化財を再び水洗し、保存修復する作業だ。陣頭指揮をとるのは博物館の首席学芸員・赤沼英男さん。震災発生後、赤沼さんは被災地の博物館を訪れ、その状態のひどさに打ちのめされた。「救出は出来たが、その資料を震災前の状態に戻すのは不可能だと思った」。ヘドロや土砂に埋もれた資料は、それが文化財なのか、がれきりなのか、見分けがつかない状態。陸前高田市では、博物館や図書館などが所蔵する文化財およそ56万点が被災した。なかには日本で最大の隕石落下の記録や、藩政時代の100冊におよぶ古文書「吉田家文書」もあった。「海水に浸かった文化財再生は、国内のみならず国際的にも未経験。方法論が無い」。地域の記憶を取り戻す挑戦がゼロから始まった。

(8)HAB報道特別番組 奥能登の選択 ～産廃を呼んだムラの10年～

- ◇制作年 2017年5月22日
- ◇放送局 北陸朝日放送
- ◇時間 48分

奥能登、輪島市にある小さな集落、大釜は、過疎・高齢化が進み、共同生活の維持が困難な「限界集落」だった。2006年、住民は集落の消滅を見据え、自ら産業廃棄物最終処分場を誘致した。しかし、産廃処分場計画は市議会や、梶市長の諮問機関である検討委員会の反対などで進まず、大釜の住民は次々とふるさとを去り、集落の荒廃は一層進んだ。10年経った去年（2016年）、輪島市の梶市長と市議会は建設推進に方針を転換し、産廃処分場計画は建設に向けて大きく動き出した。これに対し、建設に反対する住民グループが署名を集め、住民投票で産廃処分場の賛否を問うことになった。しかし、住民投票は、推進派の議員が投票の棄権を呼びかけるなど、異例の展開となった。奥能登、輪島市の「選択」は何を意味するのか。そして、消滅寸前の大釜の住民は今、何を思うのか。10年にわたる取材を通して、地方のあり方を問う。

(9)全ては熊から教わった 木彫家 藤戸竹喜の世界

◇制作年 2017年10月21日

◇放送局 札幌テレビ放送

◇時間 48分

12歳から父の傍らで熊を掘り続け、今や札幌駅に据えられた「イランカラプテ像」などの人物像を始め、「北の生命を刻む」木彫家・藤戸竹喜氏。デッサンや下書き無しに、原木をいきなり削り始めるのが藤戸流だ。「木の中にあるイメージ通りに、余分なものを省いて中のものを取り出すだけ」と制作のプロセスを一括し、「熊がデッサン、全ては熊から教わった」と語る。1歳の時に母を亡くした影響か、親子の姿を捉えた作品が多い。祖母に育てられ「人を裏切ることは絶対ダメと教えられた」こと、そして、17歳の時に北海道大学附属植物園で出会った「エゾオオカミ」の剥製がオオカミに取り組む原点となり、その時に父に教えられたことが現在に繋がったことなど、制作の過程や、作品を紹介しながら、氏の人生と木彫作家としての原点を探っていく。制作に行き詰まると、今も大型のバイクで阿寒の風景の中を疾走する藤戸。「まだまだ発展途上、この先もとにかく彫っていく」と制作意欲は益々盛んである。◆鶴雅グループprecentc

(10)ほっとネットとうほく 農を営む
～地域農業を守り続けて～

- ◇制作年 2020年3月28日
- ◇放送局 秋田朝日放送
- ◇時間 47分

秋田県由利本荘市東由利に暮らす金子拓雄さん（68歳）。小学校の頃に両親に頼まれ、一人でリヤカーで野菜を売り歩いた。お客さんから「偉いね」と褒められ、農業や商売の喜びを知った。その経験が力となり、常に新しいことに挑戦し、失敗や不作の時も前向きに取り組んでいる。耕作放棄地を含め32ヘクタールの田んぼで農業を行っている。稲作の他にもジャガイモやトウモロコシ、キャベツなどの野菜栽培をしている。自身が代表を務める「東由利グリーンツーリズム研究会」では子どもや一般の人を対象に、8月にはジャガイモ堀り、3月には雪中キャベツ堀りの体験会を実施、農業の魅力を広く発信している。春夏秋冬、様々な表情を見せる自然の中で「農」に取り組む、生き生きとした金子拓雄さんの姿に1年にわたって密着した。